

(日本リウマチ学会主催) 第1回 DoKDoKi セミナーに学生が参加しました!

3月6日(水)に九州大学病院で開催された「第1回 DoKi DoKi セミナー(JCR 基礎研究若手育成セミナー)」に分子病態研究室に出入りしてくれている4人を派遣してみました。学生さんのお一人が「最初、分子病態研究室に出入りし始めたときは先生方が何を言っているのかさっぱりわからなかったけど、今回のセミナーに参加したらレクチャーの内容が結構わかる部分もあって、研究について少しずつ理解が深まっているのを実感できた」と話してくれたのが印象的でした。

当科ではこのような機会を多く設けるように努めております。免疫病学にご興味ある学生さん、分子病態の研究室のドアをノックしてみてください。



↑きちんと楽しんでいて素晴らしいです笑

DokiDoki セミナーを受講して

医学部4年 山下将司

岩手医大以外で基礎研究についてのお話を聞いたのは初めてだった。研究を行っていく上で、自分が行っている実験、そして一つ一つの実験結果ばかりを追い求めてしまい視野が狭くなっていたが、物事を多方面から見て色々な知識をつけていくことが基礎研究を行っていく上で大事なのではと気付かされた。また、初めて当研究室における研究内容を聞いた時、何を言っているのかあまりわからなかったが、このセミナーにおいては実験の説明についていくことができ、自分の成長を感じられてよかった。セミナーの形式は当研究室における火曜日の報告会のようなものであった。登壇者の先生が研究内容をわかりやすく説明していただき、質疑応答の時間もあった。学生レベルでもわかりやすく、興味を引く内容も多かった。情報交換会では登壇者の先生方と気兼ねなく話すことができ、今後の自身の進退も含めて参考になる意見をいただいた。

医学部4年 横山 春彦

今回セミナーに参加させていただき、日本トップレベルの研究されている先生ご本人から学んだことで、未知を既知に変えていく研究の面白さを感じました。石井教授を例に挙げさせていただくと、従来の考え方とは異なり関節リウマチで骨破壊に働く破骨細胞が正常な破骨細胞と異なる起源を持つと考え、研究することで、正常と異なるカスケードで活性化した破骨細胞を見つけていっしょにいました。自分が思った疑問を調べ、実験していくことで、世界で自分しか知らない真実に到達できる。さらにはそれが新たな治療にもつながる。研究のそうした面白さがわかり、自分も研究の世界に身を置きたいと思いました。

医学部4年 清水和旗

基礎研究に関わらせていただけてからまだ研究の意義や方向性がよく分かっておらず、今回の講演で理解できない所も多々あった。しかし、今回講演してくださった先生方は自分の興味のあることを証明するために研究を通して考察していて、問題点があるとすぐに実験を通して明らかにし、解決策を見つけようとしており、現段階ではまだ研究の意義などを理解していない自分にとって、研究を進めていく上でマインドを学べた有意義な時間が過ごせた。セミナーでは知らない専門用語もあったがなるべく僕たち学生でもわかりやすく説明してくれていて、リウマチを含めた免疫学に関してかなりディープな研究をしている様子だった。セミナー後の情報交換会ではお互いに講演を通して感じたことや質問をぶつけあっており、僕も混ざりたかったが実力不足だと思い話に入れなかったので、今後自分の研究を進めていく中でそういった討論も出来るレベルになりたいと感じた。

医学部4年 加藤瑠威

今回のセミナーに参加させていただきありがとうございました。初めて岩手医大の外で学ぶ機会を頂きました。セミナーの中で、既存の診断基準や治療法、臨床的なステージ分類に対して、もっと効率のよい治療選択のアルゴリズムやより病態に則した臨床分類の提案がありました。臨床現場で見つかった問題を基礎研究のテーマに変換し、基礎研究で得られた結果を臨床現場に還元する、臨床と基礎のあるべき姿を見ることが出来ました。